

1 研究主題

基礎・基本の定着を図る指導法の工夫と望ましい学習環境の整備
～ 授業の「まとめ」と縦割り作業を通して ～

2 主題設定の理由

(1) 本校の特性と学校教育目標から

開校18年目を迎える今年の生徒数は684名で、各学年6学級と特別支援学級1学級の計19学級で編制されている。保護者や地域からの学校への関心はたいへん高く、それと同様に期待も大きい。部活動にも8割以上の生徒が参加しており、落ち着いた雰囲気の中、何事にもがんばる生徒の姿がよく見られる。

本校の教育目標は、「知性と創造性に富み、『生きる力』を身に付けた生徒を育成する」である。この教育目標を達成するために、「きれいな学校づくり」を通じた心の教育の推進と授業の「まとめ」の指導を徹底し、基礎・基本の確実な定着と基礎学力の向上を図ることを重点目標の一つとしている。

(2) なぜ、授業の「まとめ」の指導の工夫か？

これまでの授業を振り返ってみると、単位時間50分間の中で「まとめ」までしっかりと終わらない場面が時々見られた。そして、授業は中途半端な形で終わり、次の時間に「まとめ」をする状況になっていた。そのような場合、生徒の思考は途中で途切れ、学習意欲が継続せず、次の時間にもう一度押さえるために時間をかけなければならず、時間の不足を重ねる場面もあった。

そこで本校では、改めて、授業の「まとめ」の指導の工夫に取り組むことにした。教師が一単位時間の授業の「まとめ」を意識した指導を工夫することによって、一単位時間のゴールが明確になり、単位時間50分間を意識した授業設計がなされ、時間内で収束する授業が実践されると考えた。そして、生徒が「今日は〇〇を勉強した」「〇〇ができるようになった」と説明できるようにすることで、基礎・基本の定着を図ることができると考えた。

(3) なぜ、学習環境の整備か？なぜ、縦割り作業か？

基礎・基本の定着を図るためには、毎時間、生徒が落ち着いて学習に集中できる雰囲気づくりが大切である。そのためには、時間を守る、学習用具が揃っている、教師と生徒の信頼関係が成り立っている、生徒同士の人間関係が構築されていることなどが不可欠である。また、学校や教室の中が雑然とした状態では、生徒は授業に集中できるものではない。やはり、教室や廊下が整然と整頓されていてこそ、心の安定が得られるものである。そこで、昨年度から学校の重点目標に「きれいな学校づくり」を掲げた。

この「きれいな学校づくり」の柱となっているものが、昨年度から本格的に取り組んでいる縦割り作業である。今回の研究では、改めて、この縦割り作業を中心とする望ましい学習環境の整備が基礎・基本の定着を図る土台になると考えて取り組むこととした。

3 研究仮説

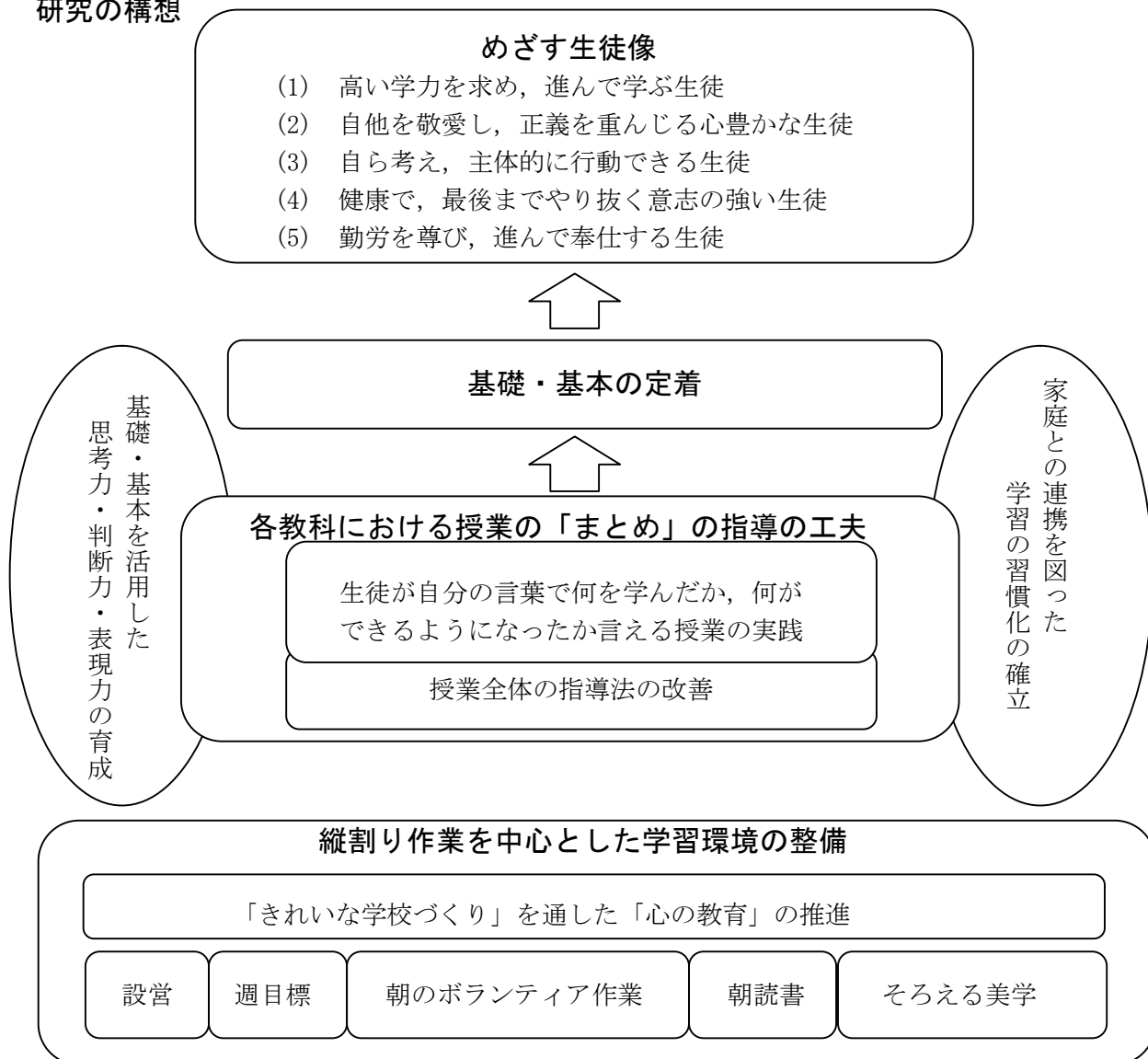
- (1) 授業の「まとめ」の指導を工夫すれば、授業全体の指導法の改善につながり、今日の授業で何が分かり、何ができるようになったかを生徒が自分の言葉で言えるような授業が実践され、基礎・基本の定着を図ることができる。
- (2) 縦割り作業を柱とする「きれいな学校づくり」を通して学習環境を整え、「心の教育」を推進すれば、落ち着いて学習に取り組むことができる。

4 研究の視点

視点1：一単位時間の授業の「まとめ」の指導の工夫

視点2：「縦割り作業」の実践を中心とした学習環境の整備

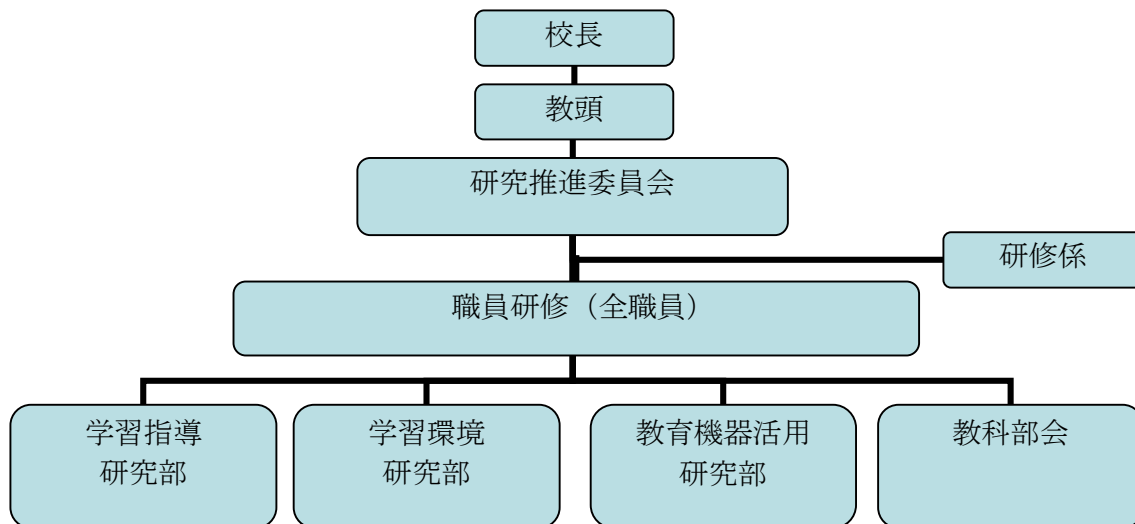
5 研究の構想



研究の全体構想図

6 研究組織

(1) 研究組織図



組織名 (構成)	研究の内容
研究推進委員会 校長・教頭・教務主任 研修係 4 名 3 つの研究部会の部長	<ul style="list-style-type: none"> 研究内容の立案・修正 研究の進行管理 各部会との連携, 連絡調整
学習指導研究部 部長 副部長 (研修係が兼任) 部員 11 名	<ul style="list-style-type: none"> 授業の「まとめ」の指導の工夫について, 実態の把握と改善策の提案, 実践 各教科部会との連携と共同研究
学習環境研究部 部長 副部長 (研修係が兼任) 部員 11 名	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通した縦割り作業の実践 設営, 週目標, 朝のボランティア作業, 朝読書, そろえる美学による学習環境の整備についての実践
教育機器活用研究部 部長 副部長 (研修係が兼任) 部員 10 名	<ul style="list-style-type: none"> 「基礎・基本」定着度調査や標準学力検査の分析 意識調査の実施 ICT機器などの教育機器の活用状況の実態把握と活用の工夫についての提案

実践例（英語科の取組）

1 研究にあたって

(1) 本校英語科の目標

英語の基礎基本を定着させる指導を通して、外国語を通じて言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成に努め、4領域のバランスの取れた実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。

(2) 「基礎・基本」定着度調査の結果から

2年生の「聞くこと」を除く全ての領域において、県と市の平均を越えている。しかし、こちらの調査においても「書くこと」の領域の通過率が、2学年とも最も低い。3年生は「話すこと」の領域も他に比べて低くなっている。いずれもテーマについて英文を書いたり、自分の考えなどを表現したりする力が十分身に付いていないことにその要因があると考えられる。基本的な英文を自己表現にいかに関結び付けていくかが課題である。また、度数分布から大部分の生徒が7割以上の通過率を達成しているが、3年では通過率の低い生徒が増えている実態もある。英語を苦手とする層をいかに減らしていくかも課題である。

2 研究内容

(1) 単位時間における「まとめ」の工夫

これまでの授業においては、毎時間の目標を設定しても、活動の時間が予定を超過するなどの理由により、単位時間の指導が中途半端に終わることがあった。そのため、その時間に定着させたい表現が身に付いたかどうかを十分に確認できず、家庭学習の内容についても生徒任せにすることが多かった。「まとめ」に重点を置いて指導を見直すことで、これらの課題が解消できると考え、本校英語科では単位時間の「まとめ」の時間で主に次の点について確認していくこととした。

- ・ その日に学習した重要表現を身に付けたか。
- ・ 教科書本文などの内容を適切に理解できているか。
- ・ その時間の学習内容を生徒自身が振り返り、要点を整理できているか。

この3点を確認するために左図のような「まとめシート」を作成し、毎時間の「まとめ」の時間において活用した。それぞれの欄は、次のような目的で設けてある。

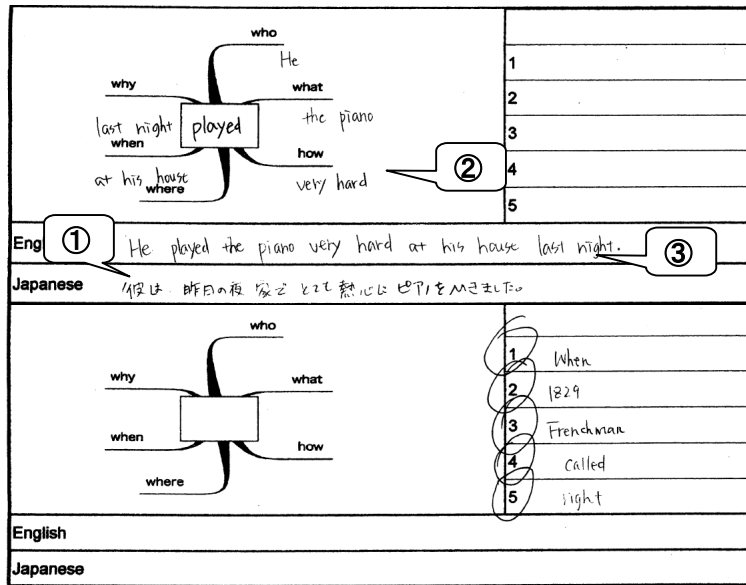


図 「まとめシート」の一部

- ① 基本文とその意味の確認
- ② 基本文の構造の確認
- ③ ディクテーションの解答，その日の授業に関する Q&A

生徒にはA4版の冊子として配付し，生徒が後でまとめて復習できるようにした。授業では全ての欄を毎時間扱うわけではなく，どの欄に何を書かせるかも，授業の内容によって教師が判断して決めるようにしている。

また，活動内容によっては，ここに示した「まとめシート」とは

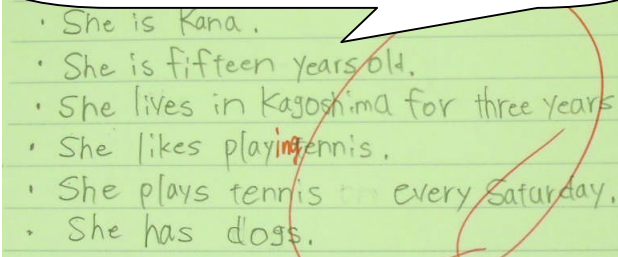
異なるシートを用いることもある。その場合は，制限時間内に重要表現をできるだけたくさん書き取らせる活動を行って定着を図ったり，練習用のワークシートを用いて生徒の理解度を確認したりしている。

(2) 家庭学習に生かす「まとめ」指導

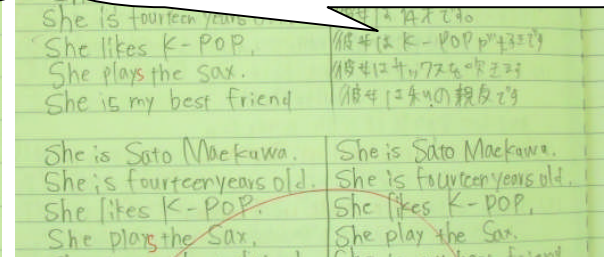
家庭学習充実を目指して，宅習帳のあり方を見直した。本校英語科では，宅習帳としてCノートとPノートの2冊を生徒に用意させ，目的別を使い分けている。C(creative)ノートは，教師が指定するテーマについて英文を書くためのものである。英文は，教師が指定した日に授業でライティングのテストを行うことになっており，テーマが示された後，生徒は家庭で英文を書き，テストに先立って教師の添削を受けることになっている。P(practice)ノートは，授業の学習内容の中から特に覚えたい事柄や，Cノートで活用できる英文の習得を目指して利用するものである。

家庭学習に取り組む際に取り書き取る語句や英文とその音声との結びつきを意識させるため，本校では授業での音読を重視している。音読をさせる際は，Repeating や Chorus Reading, Pair Reading, Read and Lookup など音読させたり，制限時間内の速音読や Intake Reading に挑戦させたりするなどして，授業中に生徒が自分の力で英文を読めるように繰り返し音読させている。

Cノート・・・授業中のテスト用ノート。
生徒は制限時間内に与えられたテーマについて英文を書く。英文は評価の対象となる。



Pノート・・・家庭学習用のノート。
生徒は事前に与えられたテーマについて，自宅で英文を書き，教師による添削を経て繰り返し練習し，Cノートでのテストに備える。



3 実践例 (New HORIZON ENGLISH Course 1 Unit4 Part3 平成23年7月14日(木)実施)

(1) 「まとめ」に向けた工夫

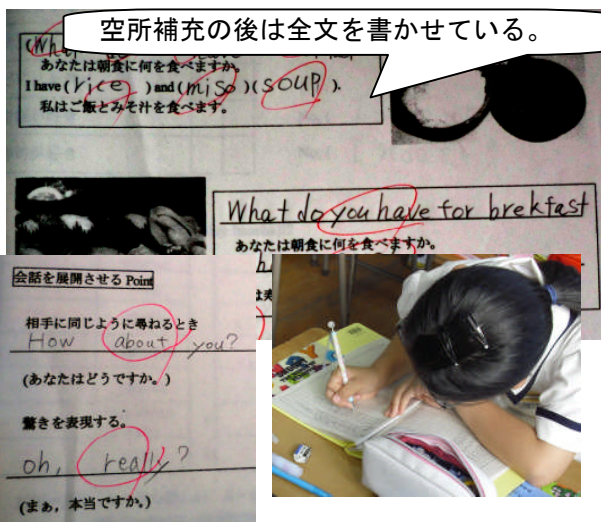
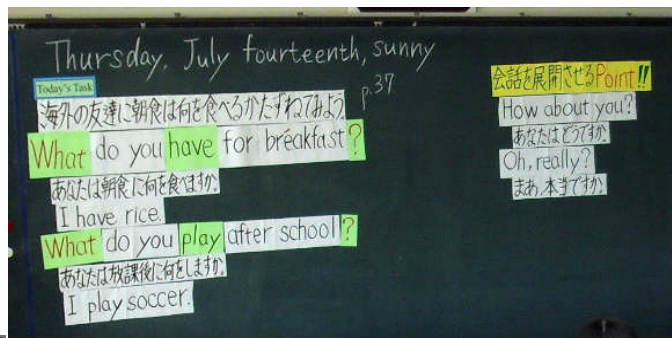
- ア 導入から目標提示までの流れを工夫し、学習目標の明確化を図り、生徒の意欲を高める。
- イ 音読や対話活動などを通して、口頭練習を繰り返し行わせる。
- ウ 板書と「まとめ」用ワークシートの内容を合わせて、生徒が取り組みやすい形式にする。
- エ 「まとめ」に当たっては、易から難への段階を設ける。

(2) 展開

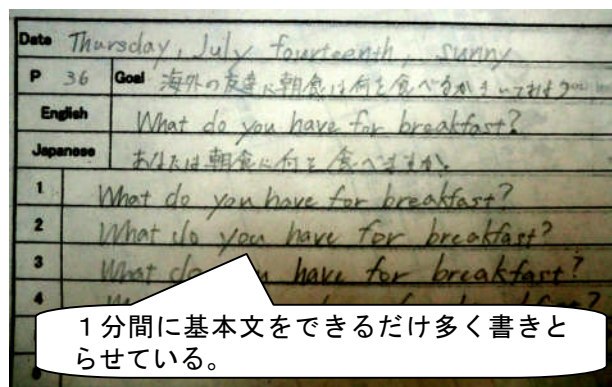
区分 (時間)	生徒の活動 □内は教師の発問→は予想される生徒の反応	指導上の留意点 □補説 ◆解説
導入 (10)	1 英語であいさつする。 2 教師と英語で問答する。写真を見る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> What's this? Can you guess? This is breakfast in America. This is breakfast in Japan. </div> →rice, miso soup, steak, breakfast, おかゆ, ご飯	<ul style="list-style-type: none"> ・英語学習の雰囲気を作る。 ・前章の表現を用いて本課の見通しを持たせる。 ・ICT機器を活用する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;"> 視覚に訴える教材、消えてもよいものの提示には大型テレビを活用する。 </div>
展開 (30)	3 本時のタスクを把握する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;"> 海外の友達に朝食は何を食べるかたずねてみよう。 </div> 4 教科書の基本問題 Listen の聞き取りを行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> Tom と彩の朝食は何ですか。 どんな言葉が聞き取れましたか。 </div> →rice and miso soup, toast, what, do you 等 5 新出表現・語句を理解する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 基本文 What do you have for breakfast? What do you play after school? </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;"> 生徒に身に付けさせたい重要な事柄は黒板上で提示する。「まとめ」で効果的に行かせるよう、提示する内容を十分検討する。 </div> 6 教科書の内容について教師の質問に答える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> Judy, Mike は何を食べますか。 </div> →ご飯と味噌汁, シリアル, rice, cereal 等 7 教科書の本文を音読する。 8 カードを用いてペアで活動を行う。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;"> 会話を展開させるポイントに留意させ、できるだけ多くの相手と活動させる。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・対話を聞いて、英語で表現する際の尋ね方と答え方を聞きとらせる。 ・聞きとらせた対話をもとに、基本文のキーワードとなる単語を考えさせる。 ・相手に質問する際に必要な表現を把握させ、新出事項を定着させる。 ・PCで新出語句の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> □ 教科書の内容を理解し、教師の質問に答えることができたか。 ◆ 簡単な英語でヒントを出し、再度質問に答えさせる。 ・音の強弱や区切り、アクセントなど音声面の特徴をとらえさせた上で音読させる。 □ 本時の基本文を用いて相手に質問させ、答える対話練習を行う。 ◆ 会話を展開させる表現を確認する。 活動がスムーズに運ぶよう、適宜助言する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;"> ここでは、練習量を増やすため平素のワークシートに加え、空所補充のシートも使用した。 </div>
終末 (10)	9 授業のまとめをする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> ①ワークシートを用い、空欄補充をする。 【例】(What) do you (have) for (breakfast)? ②1分間で基本文を出来るだけ多く書く。 </div> 10 次時の活動について確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の内容をまとめ、知識の定着度を確認する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> まとめシートを用いて、自己評価も行わせる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の課題を明確にもたせる。

(3) 本実践における「まとめ」

本実践では、基本表現の定着をより確かなものにするをねらい、平素の授業で用いる「まとめシート」の活用に加えて、空所補充による「まとめ」も行った。板書で示した内容を繰り返し書かせるために、ワークシートの内容を工夫した。



教師による板書



空所補充による「まとめ」

「まとめシート」を用いた「まとめ」

4 成果と課題

(1) 成果

- ・ 生徒がその日に学習すべき内容を意識して授業に臨むようになった。
- ・ 基本表現を速く正確に書く力を身に付けた生徒が増えてきた。
- ・ 単位時間の授業が中途半端に終わることがなくなった。
- ・ 授業後に「授業で何を学んだか」を答えられる生徒が増えた。
- ・ 教師自身が「まとめ」の時間を意識して目標を設定したり、授業の展開を工夫したりするようになった。

(2) 課題

- ・ 活動内容の違いに応じた「まとめ」の方法についてさらに検討し、「まとめシート」をより活用しやすいものにしていく必要がある。
- ・ 身に付けた基本表現を自己表現に生かすための指導法の工夫をさらに進めていく必要がある。